

科目名	作曲法（編曲法を含む。）			担当教員	柴田 恭男
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	テーマ：実用的な和声法の基礎の習得とそれを応用した編曲法。 到達目標：正しい和音の連結を理解し、教材を必要に応じて編曲および作曲できる能力を身に付ける。				
授業の概要	和声法のテキストに沿ってまずは古典的な和音連結を実習し、それを実際の教育現場で使いこなせるよう、編曲課題なども随時取り入れる。またそれに付随して、楽器法およびコードネームによるヴォイスिंगも学ぶ。 【デジタル技術利用：該当なし】				

授業計画	
第1回	和声法の概略。和音の機能について。
第2回	三和音の配置と基本形の連結。
第3回	共通音のある場合、ない場合の連結。
第4回	II から V、および V から VI の連結。
第5回	三和音第一転回形の配置と連結。
第6回	三和音第二転回形の配置と連結。
第7回	属 7 の和音の配置と連結。
第8回	ソプラノ 課題。
第9回	各種借用和音について。
第10回	コードネームとヴォイスिंगの技法。
第11回	楽器と楽器法。
第12回	旋律の創作と和音付け。非和声音について。
第13回	リコーダー二重奏の編曲。
第14回	編曲作品の発表と講評。
第15回	和声課題のまとめ。

事前学修		各授業予定の関連資料を熟読し、スムーズに授業を受けられるように準備しておく。（2 時間）
事後学修		学習した授業内容で理解できていない箇所があれば、次回の授業時に質問できるようまとめておく。また関連した課題を解く。（2 時間）
フィードバックの方法	各授業の初めと終わりに質問の時間を設けるので、疑問に思ったところは積極的に尋ねること。また授業時に随時課題の添削を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	行わない
上記以外の試験・平常点評価	50%	基本的な和声法の理解度を評価する
レポート	50%	編曲作品の提出（最終授業時）
補足事項		

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
和声Ⅰ 理論と実習		島岡譲 他	音楽の友社	4 - 276 - 10205 - 7	なし
参考資料	必要な資料は配布。				